

平成29年度 赤穂市学校評価報告書

学校園名 赤穂市立尾崎小学校

1 本年度の学校経営方針

学校教育目標：豊かにつながり合い 自ら考え たくましく生き抜く子の育成

【絆】 【思考】 【自立・自律】

高度情報化の進展，AIの進化，少子高齢化，グローバル化，雇用環境や地域社会や家庭の変容等，社会の急激な変化への対応や「いじめ」「不登校」「問題行動」等の様々な教育課題が山積している。そうした中，予測できない事態にも対応できるように，一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し，自らの未来を切り開くために，教育活動全体で児童に「生きる力」を育み，心豊かな児童を育成することは，これまで以上に求められている。

「生きる力」の育成にあたっては，次の3点が重視されている。

第一は，変化が激しく，新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい時代を担う子どもたちにとって，将来の職業や生活を見通して，社会において自立的に生きるために必要とされる力が「生きる力」であるということである。

第二は，このような変化の激しい社会で自立的に生きる上で重要な能力であるものの，子どもたちにとって課題となっている思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには，各教科において，基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと習得させるとともに，実験・観察，レポートの作成や論述といった知識・技能を活用する学習活動を行う必要があることである。

第三は，自分に自信が持てず，自らの将来や人間関係に不安を抱えているといった子どもたちの現状を踏まえると，コミュニケーションや感性・情緒，知的活動の基盤である国語力の重視や体験活動の充実を図ることにより，子どもたちに，他者，社会，自然・環境とのかかわりの中で，これらとともに生きる自信を持たせる必要がある。

今，求められているものは，「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」であるといわれている。変化の激しい時代を生きる子どもたちが，それぞれの個性や能力に応じてこれからの社会を生き抜くためには，様々な困難に直面しても，自ら考え，状況を主体的かつ的確に判断し行動する力を身に付けることが不可欠である。そのためには，知識の質や量を改善するだけでなく，学びの質や深まりを重視することが必要であり，課題の発見と解決に向けて主体的で対話的な深い学び等，そのための指導方法を工夫していく必要がある。こうした学習・指導方法の改革と併せて，学びの成果として「どのような力が身に付いたか」学習評価の在り方についても，教育課程の編成，実施，評価，改善の一連のカリキュラム・マネジメントとして改善を図っていく必要がある。

また，「学校」「家庭」「地域社会」が，それぞれの役割を自覚しつつ，学びの共同体として，地域社会から学校への要請を自覚しながら「学校教育と社会教育の融合」を進めていかなければならない。その中で，学校の役割は極めて大であり，学校としての情報発信をすると同時に，保護者や地域に学校を開くことが必要である。

また，子どもたちの学びを支えていく上で，学校は，子どもにとって安心して学べる場でなければならない。そのため，「いじめ」は人権侵害であり，決して許される行為ではないことを念頭におきながら，「いじめ」を許さない風土を育み，安全で安心できる「信頼」される学校づくりに努める。

以上のことから，学校教育目標を「豊かにつながり合い 自ら考え たくましく生き抜く子の育成」と設定した。

総合的な学校園関係者評価

- ・「子どもは学校へ行くのが楽しいと感じている」の項目で「よくあてはまる・あてはまる」が昨年度の93.1%から95.6%へ上がっており，いいことである。今後も子どもたちにとって魅力ある学校づくりに努めていってほしい。
- ・いじめのない学校，気になることがあれば学校全体ですぐに対応する学校づくりをしてほしい。
- ・「子どもは，家族や地域の人にきちんとあいさつをしている」の項目で「あまりあてはまらない・全くあてはまらない」が16.9%あり，気になる。あいさつはコミュニケーションの基本であり，よりよい関係づくりにくなくてはならないものである。今後取組が必要である。
- ・朝マラソンに継続して取り組むことで体力が向上していることは素晴らしいことである。今後さらに充実・発展させていってほしい。
- ・学校便りやオープンスクール等の案内を地域に回覧することにより，学校の様子が分かりやすくなっている。学校と地域とのつながりを大切にしていきたい。

2 本年度の学校(園)重点目標

- 1 チーム尾崎としての学校運営（教職員の共通理解と実践的な学校文化の醸成）
- 2 確かな学力の定着と向上（授業の改善と充実）
- 3 自尊感情を育み，望ましい人間関係を築く（人権教育の充実）
- 4 教育専門職としての資質を高める（研究・研修の充実）
- 5 たくましい地域人を醸成する（家庭・地域との連携）

3 自己評価結果（A～D） A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

| 観点 (重点目標) | 評価項目(学校園・教師の取組) 評価指標および目標値(期待される姿) | 評価資料 | 達成状況 | 改善の方策 |
|------------------|--|-----------------|------|---|
| 授業の 改善と 充実 | 項目 基礎基本を明確にして授業を進めている。 指標 授業はわかりやすく，楽しい。 | 保護者・児童アンケート | B | <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領へスムーズに移行できるように，カリキュラムの作成や修正を適切に行い，実践を進める。 ・学習内容のつまずきの傾向や課題を分析し，その対策を検討し手立てを行う。 ・今年度取り組んできた朝学習をさらに充実させ，国語や算数の基礎基本の定着を徹底する。 ・校内研修を重ね，主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を図る。 |
| | 項目 指導方法の工夫改善に努める。 指標 授業がよくわかる。 | 保護者・児童アンケート | | |
| | 項目 個に応じた指導を意識し，推進する。 指標 一人一人に合った指導をしているか。 | 自己評価 児童アンケート | | |
| | 項目 指導と評価の一体化に努める。 指標 明確な目標，多様な評価を行う。 | 自己評価 | | |
| | 項目 授業時数の確保に努める。 指標 カリキュラムに準拠して指導する。 | 自己評価 | | |
| | 項目 実態に応じて工夫し，特色ある教育活動に努める。 指標 尾崎ならではの教育活動の展開。 | 自己評価 児童アンケート | | |
| | 項目 体験的，問題解決的な学習に取り組む。 指標 目的を明確にして効果的な活動を仕組む。 | 自己評価 児童アンケート | | |
| | 項目 課題教育の推進に努める。 指標 国際理解・環境・福祉・情報・健康教育 | 自己評価 児童アンケート | | |
| | 項目 朝読書の充実に努める。 指標 内容を豊かにする。 | 自己評価 | | |

学校園関係者評価

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

| 自己評価は適切か | 改善方策は適切か | 課題と来年度具体的改善方法 |
|----------|----------|---|
| ○ | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> ・世の中がものすごいスピードで変化していく現在において，子ども達が自ら考え，自ら対応できるだけの力を学校教育で身につけていくことが必要である。基礎基本の習得はもちろんのこと，それらを活用する力やたくましく行動していく力を培うように取組を進めることが大切である。 ・「主体的・対話的で深い学び」がこれからのキーワードであるが，具体的にどのような授業を行っていくのか，学校としての方向性を共通理解して取り組んでいくことが必要である。 |

| 観 点 | 評 価 項 目 (学校園・教師の取組) 評 価 指 標 (児童・生徒・園児の状態・行動) | 評価資料 | 達成状況 | 改善の方策 |
|-------------------|---|----------------------|------|---|
| 人権教育 の充実 | 項目 指標 全領域の中で推進する。 計画的に実施する。 | 自己評価 児童アンケート | A | <ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校の未然防止のための授業づくりや学校・学級経営を推進する。 気になる児童に関する情報の迅速な報告、共有、指導體制の整備を確実にし、全教職員で児童に寄り添った指導に努める。 道徳を要として、授業・生徒指導・学級経営をはじめ、学校生活全体を通して人権教育を推進する。 |
| | 項目 指標 生きる力を育むよう積極的に取り組む。 常に目をかけ、声をかける。 | 自己評価 児童アンケート | | |
| | 項目 指標 いじめや不登校問題を解決しようと努める。 日常の観察、研修の充実、感性を磨く。 | 自己評価 保護者 ・児童アンケート | | |
| | 項目 指標 児童に寄り添う指導に努める。 特別な支援を要する児童に適切に関わる。 | 自己・保護者・ 児童アンケート | | |
| | 項目 指標 特別支援教育の啓発に努める。 保護者や地域住民に理解を促す。 | 保護者アンケート | | |
| | | | | |
| 研究・ 研修の 充実 | 項目 指標 自分で課題意識を持って研修に取り組む。 課題を明確にして、研究している。 | 自己評価 | A | <ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人が自分の得意分野を持ち、研修を深めるとともに、その分野において学校全体のレベルアップに努めていく。 校内研究においてPDCAサイクルによる実践を重ね、着実に成果を上げていくようにする。 朝マラソンを継続・発展させていく。 |
| | 項目 指標 豊かな人間性の形成に努める。 自己研鑽のための様々な活動に参加している。 | 自己評価 | | |
| | 項目 指標 日常的に体力向上に努める。 健康づくりに配慮している。 | 自己評価 | | |
| | 項目 指標 赤穂義士について研修する。 赤穂義士について適切に指導できる。 | 自己評価 | | |
| | 項目 指標 教育公務員としての自覚を持って生活する。 教育について、常に興味関心を持っている。 | 自己評価 | | |
| | | | | |
| 勤務時間 の適正化 | 項目 指標 ノー残業デー、ノー会議デーの実施に努める。 毎週末曜日に早く帰る。 | 自己評価 | B | <ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日を実施し、ノー残業デー、ノー会議デーの完全実施に努める。 校務分掌や調査等の文書をサーバ上に整理して保存し、業務が効率よく進められるようにする。 会議や行事等、業務の見直しを行い、精選を進めて業務の効率化を図り、子どもとともにいる時間を確保する。 |
| | 項目 指標 効率的に仕事を進める。 時間を意識した仕事をする。 | 自己評価 | | |
| | 項目 指標 子どもと向き合う時間の確保に努める。 子どもとともに過ごす時間が多。 | 自己評価 児童アンケート | | |
| | 項目 指標 校務のデータの共有化を図る。 学校のデータとして一元管理する。 | 自己評価 | | |
| | 項目 指標 同僚と協働し、明るい職場環境づくりに努める。 自分を表現する。互いに笑顔で働く。 | 自己評価 | | |
| | | | | |
| 家庭・ 地域と の連携 | 項目 指標 学校での様子を伝えるよう努める。 家庭への連絡を正確に適切にする。 | 保護者アンケート | A | <ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを保護者だけでなく地域の方々にも回覧していただき、情報を発信していく。 ゲストティーチャとして地域の方々から学ぶ授業づくりを進める。 学校と地域との双方向のつながりを深めていくように努める。 保護者との連携を密にし、相談しやすい関係を築いていく。 |
| | 項目 指標 学年便りや家庭連絡等、相互理解を図る。 定期的に発行する。保護者の願いを知る。 | 保護者アンケート | | |
| | 項目 指標 尾崎が大好きになる仕掛けをする。 授業の中に郷土の学習を仕組む。 | 自己評価 | | |
| | 項目 指標 電話、来訪者に丁寧な接遇をする。 明るく、さわやかな接遇をする。 | 自己評価 外部 評価 | | |
| | 項目 指標 保護者ととともに熱意ある指導に努める。 地域行事に積極的に参加する。 | 自己評価 外部 評価 | | |
| | | | | |

自己評価における特記事項

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 朝マラソンを毎年継続してきたことで、新体力テストの結果が良くなり、体力づくりが着実にできている。 |
|--|

| 自己評価は適切か | 改善方策は適切か | 課題と来年度具体的改善方法 |
|----------|----------|---|
| ◎ | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> いじめは絶対に許さないという思いを全教職員が強く持ち、未然防止・早期発見・早期対応に努める。情報の報告の義務を徹底し、共通理解と迅速な対応を確実にし、 一人一人の居場所のある学級づくり、あたたかい絆で結ばれた仲間づくりに努め、来るのが楽しい学校づくりに努める。 特別の教科 道徳 の授業の充実を図る。 |
| ◎ | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 教えてもらうの待つのではなく、教員一人一人が主体的に学んでいくことで自分の得意分野を伸ばす。そしてその分野でリーダーシップを発揮して校内研修を進め、学校全体のレベルを高めていく。 校内研究での実践に対し、検証を行うことでさらに課題を明確にし、常に課題意識をもって研究授業に取り組んでいく。 |
| ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日の完全実施に向け、働き方改革、意識改革に取り組み。遅くまで残って仕事をするより、生産性を高めて短時間で仕事を仕上げることに重きをおく。 教職員全員がそろって取り組むようにする。 会議や行事、業務の見直しを行い、精選することで仕事の量の緩和を図る。 |
| ○ | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 今後も学校便りを定期的に発行し、地域にも回覧することで学校の情報を発信していく。 ホームページを活用して、学校の概要等も含め幅広く情報を発信するようにする。 尾崎地区の伝統について理解を深めたり、地域のよさを発見したりするような授業をつくっていく。ゲストティーチャーとして地域の方々から学んでいく。 子どものことについて、保護者と綿密に連絡を取り合い、何でも相談できる良好な関係を築いていく。 |

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 若手教員の指導を充実させる。ベテラン教員の指導や、校務分掌等を実際に推進させていくことを通して力量を高めていく。 学年に応じたキャリア教育を一層推進していく。身につける力を明確にしてカリキュラム上の位置づけを見直していく。 |
|--|